

令和五年度入学者選抜学力検査問題

国

語

(一時間目 六十分)

注 意

- 一 問題用紙と解答用紙、メモ用紙のそれぞれの決められた欄に、受検番号と氏名を記入しなさい。
- 二 問題用紙は放送による指示があるまで開いてはいけません。
- 三 問題は1ページから6ページまであります。これとは別に解答用紙とメモ用紙がそれぞれ一枚あります。
- 四 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号

氏
名

一 「聞くこと」に関する検査

二 次の文章を読んで、1～5の問いに答えなさい。

三 次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

近年、文化財を観光やまちづくりなどの分野で活用する機運が高まっている。例えば、神社仏閣、城跡、歴史的建造物などの独特な雰囲気をもつ会場で、会議やコンサート、デントウ芸能の鑑賞会などを実施することにより、特別感を演出できる。また、文化財の特徴や魅力を生かし、地域のイメージアップを図ることもできる。ただし、文化財は一度壊れてしまえば取り返しのつかないものである。それぞれの特性についての正しい認識のもと、適切に取り扱わなければならない。活用する際、主催者は、文化財の価値を損なうことがないように、参加者にハタラきかける必要がある。

- 1 ① 雰囲気 ③ 損なう ④ の読み仮名を書きなさい。
② デントウ ④ ハタラき ④ を漢字に直して書きなさい。

- 2 近年 が直接係る部分を、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア 文化財を イ 活用する
ウ 機運が エ 高まっている

- 3 取り返しのつかない という意味を表す故事成語を、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア 虎の威を借る狐 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
イ 漁夫の利
ウ 覆水盆に返らず エ 五十歩百歩

- 4 正しい の活用形を書きなさい。

四

次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

五 次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

それ三界はただ心ひとつなり。心もしやすからずは象馬七珍も
(人間の世界) (象や馬や七つの珍宝)

よしなく、宮殿楼閣も望みなし。今、さびしき住ひ、一間の庵、

みづからこれを愛す。おのづから都に出でて身の乞匄となれる事
(物乞い)

を恥づといへども、帰りにてここにをる時は他の俗塵に馳する事を
(俗世間のつまらない物事にとらわれる)

あはれむ。もし人この言へる事を疑はば、魚と鳥とのありさまを見

よ。魚は水に飽かず、魚にあらざればその心を知らず。鳥は林を

ねがふ、鳥にあらざればその心を知らず。閑居の気味もまた同じ。
(良さや趣)

住まずして誰かさとらむ。
(「方丈記」による)

1 いへども さとらむ
を現代仮名遣いに直しなさい。

2 AとBの~~~~線部の主語の組み合わせとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア	他人	Ｂ	作者	イ	Ａ	作者	Ｂ	他人	
ウ	Ａ	他人	Ｂ	他人	エ	Ａ	作者	Ｂ	作者

3 また同じ について、次のようにまとめた。「a」「b」に当てはまる語句を、本文中からそれぞれ五字で抜き書きしなさい。

魚の「a」という心、鳥の「b」という心は、それぞれ魚や鳥にしか分らないのと同じように、閑居に住む人の心は、住んでいる人にしか分らないということ。

4 次は、この文章を読んだ生徒AとBの会話である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

A	作者は、どんな生活をしたかと思っているのかな。
B	他人の生活と比較していることを踏まえて考えると、俗世間に「I」生活を、作者は望んでいるのだと思うな。
A	閑居に住むことで、自分の望む生活ができているんだね。
B	作者は、心が安らかでなければ、珍しい宝や宮殿のような豪邸も意味がないと言っているね。閑居での生活に満足できるかどうか、人によって違うということだね。
A	そうか、「ただ心ひとつなり」とは、「II」ことができるということなんだね。これは、現代に暮らす私たちにも当てはまりそうだね。

- (1) 「I」に適する内容を、八字以内で書きなさい。
- (2) 「II」に適する内容を、二十字以内で書きなさい。

六

あなたが今までに影響を受けた人物やものごとについて、その影響によって自分がどう変化したのかを交えて、次の〈条件〉にしたがって書きなさい。

〈条件〉

- ・ 題名は不要
- ・ 字数は二百字以上、二百五十字以内